

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1385号 令和3年12月15日

12月号

岸田首相の所信表明に欠けているもの……………本紙編集部……………	1
いよいよ尻に火がついた韓国政権……………	2
「老化するお金」を発行せよ……………	3
映画業界が変化している……………	4
健康メモ「乾癬（かんせん）」は感染しない……………	5
大笑い「文書交通滞在費」……………	6
活動報告……………	6



11月23日 加古川市志方町

本 社 〒847-0871 佐賀県唐津市東大島町 19-5
電話 090-3199-8446 no.shin.7771008@gmail.com
賛助購読料 年額 3,000円（年10回発行）
ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発行所
中央情報通信社
編集長／谷田 透

岸田首相の所信表明に欠けているもの

本紙編集部

ようやく岸田首相の所信表明が十二月六日に行なわれたが、「新しい資本主義」の具体性が欠落していることを各マスコミが厳しく追及した。しかし岸田首相は、小泉政権や安倍政権の時代に突き進められた「新自由主義」の市場理論を覆すのかどうかさえ言っていない。新しい資本主義で景気と雇用を上げるのなら、ジャブジャブに金をバラ撒けば景気は良くなり新しい商売も栄えるだろうが、それにも触れなかった。

コロナ対策については、安倍政権時代から菅政権時代に出遅れて失策を犯した反省が強いため、先手で対策を打ち出していくことは間違いないと思われるが、それを緊急事態法に結びつけるのかどうかを言わないのは姑息だ。緊急事態法を防衛・安保に直結させて批判するのは左派の常套手段だが、国家国民の一大事に一括して対応する緊急事態法が無ければ、自衛隊も個別の要請を受けられず出動も出来なくなる。阪神大震災の時には、中部方面総監部から偵察部隊のオートバイを七台走らせるのに、指揮官は後から責任追及されてクビになる覚悟をしていたそうだ。一大事に対応する緊急事態法の規定を作らないで近代国家が運営できるのは、逆に言えば日本は素晴らしいという事にもなるが、それはいつまでも続かない。

さて、岸田首相の所信表明で最も欠落している部分は「憲法改正」についてである。憲法の内容が国際情勢に適合しているかどうかや、国家国民の現状に不都

合を起こしていないかどうかを議論することに重点を置くそうだが、これでは小泉・安倍時代と何も変わらない。ただ自民党の結党の理念として、占領下で臨時に制定された日本国憲法は「国民の手で改憲すべし」という問題を、岸田首相も「私もしっかり守っています」とアリバイ的に話しているだけだろう。

実は自民党内部では、憲法改正について「改憲できることが最重要」との見解が出ているのだ。内容を議論するとか前文や九条についてなどの議論は、実は後からで良い話なのだ。急がれているのは、憲法を改正することが殆ど不可能な現行システムを改善する法整備なのである。自民党上層部とてバカが揃っている訳ではない。しかし国民向けの話になると、本音はどこかへ行ってしまうようだ。

岸田首相がたとえ短期間政権であったとしても、憲法改正をしやすくする法整備を目指すのなら、歴史に残る政権と呼ばれるだろう。国内世論に過剰に配慮する必要も無く、靖国神社に大勢で参拝してお茶を濁す必要も無く、立派に戦後の総括が出来るルールを敷くことができるのである。

遠慮・忖度・茶番が岸田流だと言うのなら、所信表明はあれで充分かもしれない。だが、本気だと言うのであれば、憲法改正の道筋を乗せるルールを作ろうとアピールするべきではないのか。国会で多数を巻き込んで、憲法改正は可能だと決議してしまう覚悟を、岸田首相には求めたい。



いよいよ尻に火がついた韓国政権

十一月後半に日米合同軍事訓練が行なわれた。尖閣諸島に中国解放軍が上陸して前線化した時に奪還する訓練だが、電磁兵器でリーダーを無力化して空挺部隊がパラシュート降下するという隠密攻撃である。

これは台湾海峡の金門島を想定していると中共は訴えているが、自衛隊関係者の中にも「中共に日米安保を見せつける」と鼻息を荒くしている人もおり、どうやら当事者たちは「台湾海峡有事」を最優先で考えているようだ。

しかし、この日米合同軍事訓練で蚊帳の外だった韓国軍は心中穏やかではない。

米韓安保を破棄すると叫ぶ大統領候補が与党の統一候補なので、このままでは日米韓の統一作戦コードを外される可能性が高くなってきた。韓国は日米から見捨てられる瀬戸際だと暗示すること、「それなら中国解放軍と安保を結ぶ」という世論は起らない。平和で安全な時だけ、韓国の世論は反米で盛り上がる。



それを承知の米軍では、建前は尖閣防衛としながら、実際には中共と手を組む考えが如何に愚かなことか思い知らせる腹がある。

文在寅大統領がリップサービスで口を滑らせ「反日は愛国心と同義語だ」と言わんばかりの暴言を吐いたのをソウルの若者たちは聞き逃がさなかった。このまま青瓦台が親中で行くなら、若者はソウルで反体制デモを繰り広げて日米の側に走るぞと本気で怒っている。与党の共に民主党は肚をくくる必要に迫られている。

三月の大統領選挙では野党統一候補である尹錫悦(ユン・ソギョル)が「中国は嫌

いだ、日米の方がまだましだ」というスタンスでいるので、ソウルの若者たちは嫌でも尹錫悦を支持しなければならなくなる。実はここにも中共から毒饅頭が届けられているようで、野党陣営の中にも中共ひも付きが隠れており、中共は尹錫悦が大統領になっても大丈夫な仕組みを作り上げている。日本人は潔癖だからそんな駆け引きはしないが、韓国の両班たちは平気で国を裏切るのである。長年宗主国だった大陸皇帝にとっては、両班の保身は計算済みの作戦なのだ。

今のソウルでは、国立大学を卒業しても一流企業つまり財閥に入社出来る人は微々たるものであり、その財閥自身も韓国の両班政治に愛想を尽かしてアメリカに本部機能を移転させる計画を発表する所が出て来た。つまり、ソウルの若者たちは、国立大学を卒業しても水商売や日雇いで一生を終わる危険性がでてきた。この危機を黙って見過ごすような韓国の若者はいない。

一九八〇年代の全羅南道では一七〇人以上の若者が戒厳軍に殺され、国際的な非難が集中して軍政権は崩壊した。瞬間湯沸器の性格を持つている韓国の若者は、デモで殺されることを恐れない。文在寅大統領や李在明大統領候補には、機動隊に発砲命令は出せないだろう。死ぬ若者がいない代わりに、大統領は引退しなければならなくなるのだ。

十一月の日米合同軍事訓練をシビアに見つめていた韓国の若者の目には、両班に韓国を売り飛ばされることを許すなどという機運が高まってきた。我慢も限界がある。その怒りは日米に対してでも中共に対してでもなく、大統領と与党に真っ直ぐ向かうことになる。

北朝鮮は、現状の韓国情勢に深入りするのには得策ではないと知っており、今後の中共の出方と韓国世論の動向を確認しようとする高みの見物である。後出しジャンケンでも北朝鮮の立場は変わることは無いと冷静だ。

「老化するお金」を発行せよ

シルビオ・ゲゼル(写真)が提唱した「老化するお金」は、一九三〇年代に炭鉱が閉鎖になって経済的に行き詰まったヨーロッパで実験された。

炭鉱労働者が町でだけ使える紙幣が発行され、裏面には発行年月日と十のマス目が印刷されている。毎月1%ずつ目減りしていく紙幣には、交換所で券面金額の1%分の証紙を貼らなければ額面で使う事ができなくなってしまう。しかしこの「老化するお金」というシステムによって、閉鎖した炭鉱町は消費が回り、何とか暮らしは成り立ったのだ。

実はこれこそ「お足」という日本的なお金の考え方である。回り回って人々を豊かにするためにお金は存在し、だから「お足」と呼ばれたのである。ところが、それを溜め込んで、他人にお金を貸し付けて利子を取る連中が現われ「お足」は死んでしまう。高利貸しが「お足」を殺したのである。「老化するお金」なら、溜め込んでいけば価値が下がる一方だが、高利貸しが作り出した「膨張するお金」は放置していても利息によって倍々に増えてゆく。

今の日本経済は、日銀のゼロ金利政策の中で金融機関が傾き始めた。利息によって肥え太る商売は、金利が無ければ成り立たない。小さな銀行は自己防衛のため、日銀から金を借りて、そのまま融資に回して薄い利ざやを取る。薄い仕事

いよいよ三月に大統領選挙が行なわれるが、その前に北京オリンピックピックがあることを文在寅大統領はビクビクしながら待っていることだろう。世論が反体制で沸騰しませんように……といくら願っても、既に尻には火がついている。

ばかりするので、新規の設備投資などは控えてしまうため、お金を借りて事業を拡大しようとするところはやっていけないのだ。

ならば逆に、日銀が「老化するお金」を発行して急速に経済を回し、お金本来の「お足」を復活させたらどうだろう。



シルビオ・ゲゼルの「老化するお金」を徹底的に葬ろうと画策したのは、ゴールドスミスと呼ばれた金貨預かり所つまり銀行である。彼らは金貨を預かり、預かり証を発行する。その預かり証は金貨の代わりとして使用できたが、ゴールドスミスは預かり証を金貨に交換する客が発行量より少ないことを知っており、実際に預かっている金貨の九十九%の預かり証を貸し出すことにしたのだ。貸し出すとは、預かり証の額面の1%を利息としてゴールドスミスに納めることだった。これを「信用創造」と呼んで、近代銀行が引き継いでいる。無い所から利益を生み出すのが銀行の商売であり、銀行は「老化するお金」が発行されたら潰れるのだ。銀行は絶えず貸出金を大きくしておかねば、持ち金に税金をかけられてしまう。

そこで「信用創造」を悪用して、無い所から貸し付けるから実際は持ち金が出た金ほど多くない。だからメガバンクは中小企業並みの法人税しか納めていない。

銀行制度を根本から変えていく気概があれば「老化するお金」によって不良資

産家などは消えていく。真面目に新規事業に投資していない銀行も潰れる。長い歴史の中で、どこかにターニングポイント

トを作らねばならないなら、今は潮時と言えるかもしれない。

映画業界が変化している

映画と言えば、古くはフランスやイタリアの名画を思い出す。イギリスから新天地アメリカに移住したチャップリンは、これからアメリカ映画の時代だと言った。当時はニューヨークに演劇と映画の拠点があったが、やがて演劇はブロードウェイ、映画はハリウッドに拠点を移し、聖地と呼ばれるようになる。

ハリウッド映画業界は世界を席巻していた時期が長く、その為に「儲かる映画」か「政府依頼の映画」だけに傾注することになる。映画は娯楽であると同時に、手っ取り早いプロパガンダなのである。

ベトナム戦争で疲弊したアメリカでは、映画製作は分業制になり、原作・脚本をプロデューサーが鞆に入れて、大手の配給会社やスポンサーを回って映画の企画を通した。その後は監督等の制作陣を確保し、出演者を決めて、投資家から出資を募って映画を作った。金を出さず人間が最も映画に口出し出来た。脚本が変わり、出演者も変わることが増え、映画は廃れていった。「もうハリウッドは終わった」と言われていた時、自分で集めた金を持って映画を作った監督が現われた。フランシス・ Coppolaである。彼の「ゴッドファーザー」は世界的大ヒットとなり、ハリウッドは有力者が総入れ替りになって甦った。

同じように、優れた若い監督が配給会社の重役やスポンサーから無理難題を押し付けられて潰されそうになっているのを、Coppolaが助けた。「俺が後ろ盾になって会社と交渉してやる。スポンサーも俺



カリフォルニア州のネットフリックス本社

に任せろ」…そうやって育てられたのが、ジョージ・ルーカスでありステイブンスピルバーグだった。

暫くしてアメリカの雇用情勢が悪化し経済が低迷し始めた時、中国はバブル経済に突入しようとしていた。中国共産党指導部はアメリカの先例に倣い、映画を世界的なプロパガンダとして使うことを決めた。中央宣伝部が担当し、ハリウッドに莫大な投資を繰り返して、脚本を書き換えさせる権力を手に入れた。チャイナマネーに踊るプロデューサーたちも多くなり、業界はチャイナマネーに群がる銀蠅に墮落した。既に公開されて劇場にかけられている映画でさえ例外ではない。中共中央宣伝部長がハリウッドに出向きMPAA(全米映画協会)に直談判すると、公開中の映画でも引き揚げられ、CGで場面を書き換える荒技を使うこともあった。噂では~~DOWN~~のCG製作費(悪役中国軍を北朝鮮軍に入れ替える)は、宣伝部長の李長春が一億ドル出したと言われている。

こうして墮落腐敗したハリウッドの映画業界は、トランプ政権の副大統領だったペンスがMPAAの役員たちをハワイトハウスに呼びつけて「チャイナマネーから手を引け」と怒鳴って命令したことから、資金繰りが急に難しくなった。当然名作は生まれにくくなり、一般社会からは「ハリウッド映画は面白くなくなつた」と言う声が出始め、投資家たちもハリウッドに替わる映画の投資先を探し始めた。そこに登場したのが「ネットフリッ

クス」である。

ネットフリックスはネットで映画を配信する会社として始まったが、やがて自前で作った映画を配信するようになった。それが面白いというのでスポンサーが集まり、プロデューサーが無理難題を言わないからと安いギャラで大物俳優も登場するようになった。ネットフリックスは今ではハリウッドの顔役たちを震え上がらせる存在になっている。

ネットフリックスはこれからの映画業界を激変させることを目指し始め、自前で映画館も作り、韓国の若い監督に投資し始めた。今の韓国映画界は、文在寅政権の不当圧力に押し潰されそうなので、配給会社の大手を支配していたロッテやサムスンも腰が引け始めた。文在寅政権が、自分たちに都合の良い作品を作らせるために、脚本に口出しし、共産主義者を弾圧した軍事政権や日本を悪者としてしか描けないように作らせている。

振り返れば、ハリウッドではそんな時にコッポラのような英雄が現われたが、

健康
メモ

「乾癬(かんせん)」は感染しない

乾癬を知らない人も多いだろう。免疫異常によって皮膚の代謝が凄まじく早くなり、フケのような鱗屑がぼろぼろと体中から出るのだ。乾癬になった部位はまるでひどいタムシのように変色する。痒みも半端でなく、ステロイド剤を塗らないと掻きむしって気絶することもある。手足だけでなく、顔にも体にも拡がっていく。精神を病んで自殺した人の話もある。

ひと昔前にはアトピーが皮膚病の代表格だった頃もあるが、いつの間にか激減している。アトピーは患部が湿っているのに対して、乾癬は乾燥している。白癬菌の水虫やタムシと混同する人もいるだろうが、全く違う病気なのである。

韓国ではネットフリックスが現われたのである。韓国映画のドラマ作りはハリウッドを超えており、しかもコスパが良いのが強みだ。ネットフリックスの投資は、コロナによって映画業界・演劇業界が不況になったのを利用して、今ではハリウッドを凌ぐ勢力にまで巨大化している。世界的には、ドラマの韓国、アニメの日本と呼ばれているのだが、ネットフリックスが韓国ドラマと日本アニメを手に入れば、ハリウッドは太刀打ちできなくなる。

ハリウッドの心ある映画人たちは、「今こそハリウッドは名作を作るべきだ」と叫んでいるが、CGを多用することに慣れ過ぎた業界では、ヒューマニクな名作を作れる才能が枯渇状態になっているらしい。エジプトでもうピラミッドが作れないように、日本で木造の五重塔が作れないように、一度廃れた技術を甦らせるのは至難の業である。

映画の世界が変わってきたことを、我々も真剣に見つめて行きたいものである。

友人で重症の乾癬を患っている人がいるが、一時は日に日に体中に広がる真つ赤な皮膚炎を見ながらアル中になったと言う。自殺はしないが、痒みと精神的なシヨックを癒すためには、ベロベロに酔っぱらうのが早道だったそうだ。だからと言って乾癬が快方に向かう訳も無く、結局入院することになった。

一九八〇年代には、乾癬には免疫抑制療法が良いと言われ、ステロイド軟膏を塗って紫外線照射を続けた。過剰な皮膚の代謝を抑制する塗り薬も登場した。ビ



タミンドの薬液を入れた風呂もあった。しかし、治ることは無かった。

二〇一〇年になって、免疫を整え炎症を抑える新薬が認可され、注射で簡単に治療を進めることが出来るようになった。

新薬を注射するのは約三ヶ月に一度というサイクルが多いが、最も安価な注射でも一回二万円以上だ。七段階の最高は一回二十万円を超える。いくら乾癬に苦しんでいても、誰でもが受けられる治療ではない。だが効果はてきめんで、三ヶ月に一度の注射を続けている間は乾癬を忘れることが出来る。

治療法はもっと進むだろう。医学の進歩は五年経てば未来の治療法が生まれている。だが、その治療法が乾癬患者なら

大笑い「文書交通滞在費」

国会議員の文書交通滞在費（文通費）が話題になっているが、維新の党は率先して「こんな制度はおかしい」と言い出した。ここまでは立派である。「日割りにすべきだ」と言ったバカ議員や政党もあったが、そもそも文通費を日割りするというのは意味不明だ。

関西では維新の党が大阪や兵庫を席卷しているが、彼らの文通費の処理の仕方が話題になっている。

維新の幹部で現職国会議員が運営しているNPO法人を「寄付先に指定」して、維新の政治家たちは文通費を寄付しているという噂が出回っている。右手に貰った金を、左手に寄付しているだけだと思いが、新聞は問題視していない。

綺麗ごとを言うのが政治家や政党の仕事かもしれないが、余りにも底の浅い話だ。松井代表は侠気のある性格だから、彼の知らない所で決まったことなのか、それとも当該NPOを経営しているのが仲間の議員だと知らないのか。いずれにしてもお粗末である。

誰でも等しく受けられるようにするためには安価でなければならぬ。今のままでは、保険適用でも一般人は躊躇する。最安の注射でも年間十万円近い金額を死ぬまで払い続けねばならない。注射は、止めたら乾癬が再発するからだ。

見た目はタムシに近いが、最も大きな違いは「乾癬は乾燥していて、接触感染しない」ということだ。温泉などで乾癬患者を見かけることがあるかもしれないが、「乾癬は感染しない」と合言葉のように覚えてほしい。尋常性乾癬は国の指定難病ではないが、難病であることに間違いはない。我々一般人も病気を知って、無用の恐怖や差別を感じないように努力しておきたい。

地方事務局活動報告

■関西本部

◇十一月二十三日（祝月）

・三島由紀夫先生五十一回忌に鑑み、正午より加古川市志方町・玉の緒地藏祈願所にて慰霊碑清掃奉仕。党员及び有志二十名で「英霊の声」を斉唱し黙祷を捧げたのち直会。午後二時頃解散した。

◇十二月三日（金）

・午後六時より、尼崎市市内において「むすびの集い」勉強会兼忘年会を開催。党员、有志計七名参加。

